



# 地（知）の拠点整備事業 （大学COC事業）

## 全国シンポジウム・パネルディスカッション



宮崎大学「食と健康を基軸とした  
宮崎地域志向型一貫教育による人材育成」事業

COC 推進室長・農学部教授 國武久登



# 地（知）の拠点整備事業 （大学COC事業）

## 全国シンポジウム・パネルディスカッション

### ○事業概要と課題解決に向けた試み

- I. みやだいCOC事業の特徴（目的とミッション）
- II. 全学を挙げた協力体制の構築・地元自治体等との連携体制
- III. 地域課題とそれに対応する取り組み
- IV. 学内における本事業への教員の理解浸透のために
- V. 今後の課題

# I. みやだいCOC事業の特徴

## 「食と健康を基軸とした宮崎地域志向型一貫教育による人材育成事業」

宮崎県の基幹産業である農業分野の振興において、  
「食と健康」を基軸とした人材育成・技術創出・中山間地域の活性化と中心市街地との有機的連携（融合）が地域の緊急課題であり、その対策が宮崎県の重要施策に位置づけられている。本学は「世界を視野に地域から始めよう」をスローガンに掲げており、地域の大学として宮崎県と問題意識を共有し、全学を挙げて課題解決に連携して取り組むものである。

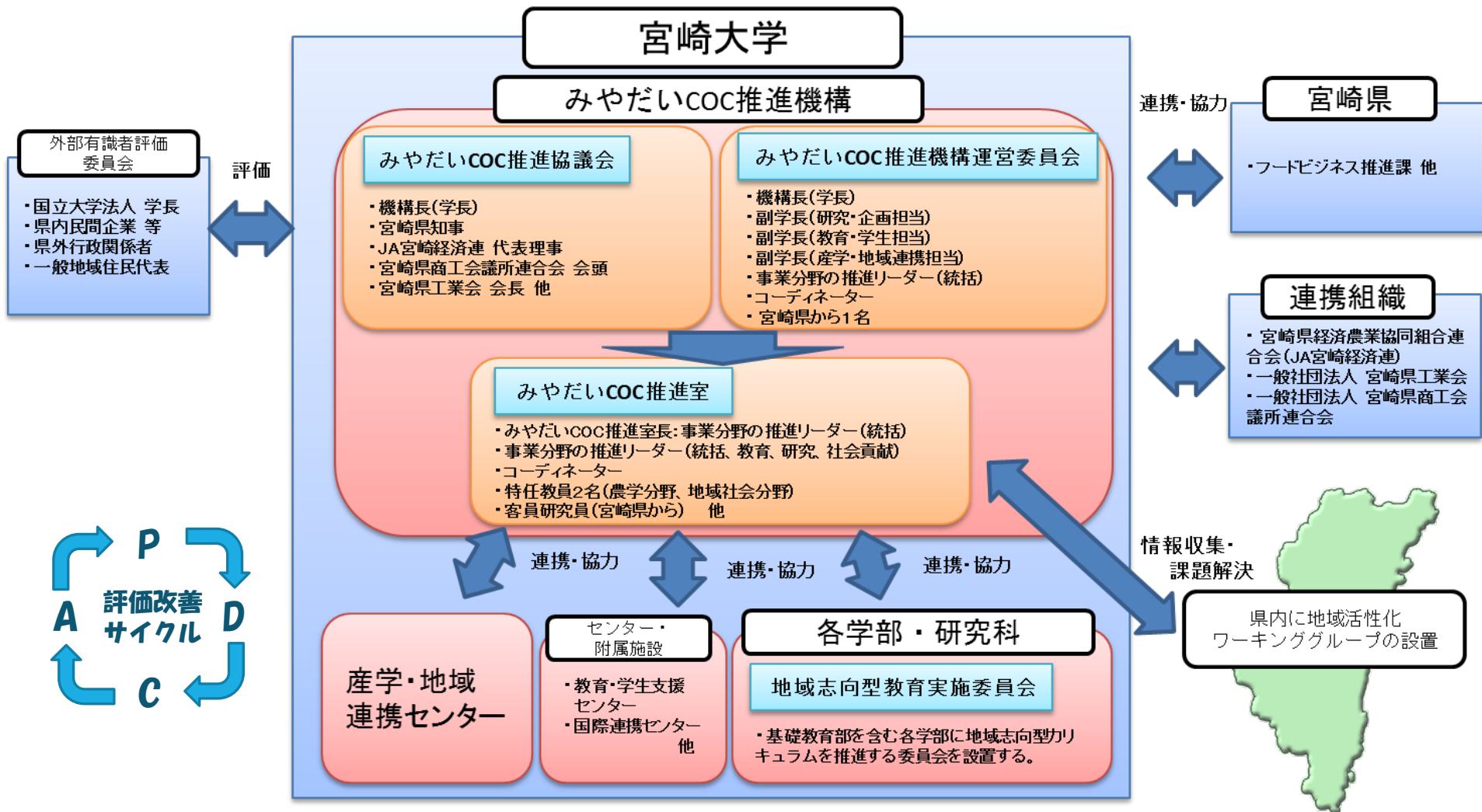
# みやだい COC 推進機構の目的及びミッション

事業の特徴：

1. 連携機関 宮崎県
2. 地域課題に対する取り組み・「食と健康」を中心に
3. 「宮崎地域志向型一貫教育」の導入 **【教育】**
  - \*基礎教育の科目間、専門教育との連携の構築、地域を学ぶ場（全学生を対象）
4. 「農畜水産加工実習室・食品成分分析実習室」の設置 **【研究】**
  - \*宮崎県産農作物の機能性評価、地域ブランドの創出
5. 学生ボランティア、チャレンジプログラム支援 **【社会貢献】**
  - 高齢者・社会人の再チャレンジ（学びなおし）支援
  - \*公開講座の充実、生涯学習の充実



## Ⅱ. 全学を挙げた協力体制の構築・地元自治体等との連携体制





—学内外を巻き込んだPDCA評価システムの確立—

# 外部評価・内部評価（毎年実施）

## 外部有識者評価委員会

- 長尾 省吾（香川大学長） \*委員長
- 水永 正憲（元旭化成（株）取締役兼常務執行役員）
- 町川 安久（宮崎日日新聞社 代表取締役社長）
- 宮路 高光（鹿児島県日置市長）
- 田口 正幸（宮崎県SAP会議連合理事長）

## 平成25年度 外部評価コメント

評価結果 A

本事業推進のための体制（組織・人員配置・施設）が計画通り整備されている。特に、円滑かつ効果的にPDCAサイクルをまわすことのできる体制が組織された点は評価できる。教育・研究・社会貢献分野の取り組みについても概ね当初の計画どおりに実施されており、今後の事業推進に不可欠な基盤構築・情報収集がなされた。



外部有識者評価委員会

【みやだいCOC事業】平成25年度 年次事業報告書の外部評価結果に係る改善を要する点等の状況調査表 平成26年8月

【教育分野】地域志向の教育	
<p>【2-1】宮崎地域志向型一貫教育カリキュラムの構築について</p> <p>【審議の観点・基調】</p> <p>2-1-1「宮崎地域志向型一貫教育」による人材育成のためのカリキュラム編成の基盤を構築できた。</p> <p>2-1-2「育成する人材において、地域との重要交換ができた。」</p>	<p>【評価点として指摘された事項】</p> <p>みやだいCOC事業の推進目標の一つに、「産業界と地域企業に就職させる」を掲げ、地域企業との経営者と共に、COC事業の魅力を学生に伝えていく施策が必要である。</p> <p>○卒業生と地域企業との関係が不十分であるため、その観点からの授業科目の設置やカリキュラムの構築が必要である。</p>
<p>【改善方針及び改善計画】</p> <p>宮年度は、宮崎地域志向型一貫教育カリキュラムの構築に向けて、構成科目の新設及び既存科目の授業内容・方法等について検討してきた。また、みやだいCOC推進協議会（機構長：学長、加藤、常務：上田副学長、会田副学長）進行中の宮崎産学協働、地域活性化ワーキンググループ設置目的の意見交換会を通じて、地域が求める人材や「地域のための大学」に向けて宮崎大学の期待・要望について意見交換を行ってきた。</p> <p>さらに、学生への「産業界・地域企業との関係構築に関する実務講座」において、学部1年生段階における産学連携（校内から校外へ）と地域における活動の関連性について調査を行った。</p> <p>宮年度は引き続き、産学・産地連携の意見交換を行う。さらに、2016年度は、宮崎地域志向型一貫教育カリキュラムを創出するため、その受講生の言動という地域に対する意識の変化についても、定量的・定性的に調査する。また、宮崎県中小企業団体中央会と連携し、地域企業との能力（社会貢献等）を伝える授業を行う。</p>	<p>【改善方針及び改善計画に対するコメント】</p> <p>外部評価委員会での質疑応答で、「産業界と地域企業に就職させる」ための定量的目標設定も求められていますが、COC事業だけの範囲で目標設定できるものではなく、各学部での取組が必要と思われます。単年度で定量的な目標設定はできませんが、各学部での取組結果と今後への課題を調査する取組が必要と考えられます。</p> <p>「産業界と地域企業に就職させる」に対する外部評価委員会コメントに対して、より具体的に定量的改善方針を定めることはできていないという指摘は、集中講義「地域キャリアデザイン」の推進策との関係に、キャリア教育として正課外での「地域企業から学ぶ」としての能力開発講座を企業からの講師を招いて、産学間の取組を促して連携関係を、ある程度参加型にシフトを促すなどして学生インターンシップの取組に促める等です。</p>
<p>①学外者との意見交換</p> <p>【計画】みやだいCOC推進協議会：年1回、地域活性化ワーキンググループ：2～3回/月に1回</p> <p>②大学生の地域活動に対する実態調査</p> <p>【計画】宮崎大学学生を対象に、8月～9月の集中講義「地域キャリアデザイン」、10月以降の「地域学入門」にて実施する。他の学年については、実施方法について、学部COCコーディネーターと協議する。</p> <p>③産学・産地連携センターの設置</p> <p>【計画】「地域キャリアデザイン」8～9月集中講義</p>	<p>【審議の観点・基調に対する参考コメント】</p> <p>「カリキュラム編成の基盤を構築」は着実に実施されていると判断できます。</p> <p>「育成する人材等において、地域との重要交換は、地域活性化ワーキンググループでのヒアリングで実施されています。ヒアリング結果の取組のための今後本学特許への取組が求められます。</p>

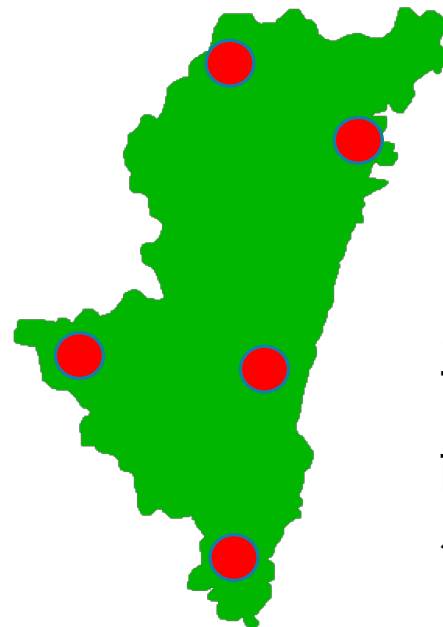
宮崎大学全学評価室 内部評価資料



—密な信頼関係を構築するために—

# 地域活性化ワーキンググループの設置

宮崎県内に5カ所の組織を作り、幅広い地域ニーズの積極的な掘り出しを行う。  
学生、教員、地域住民から構成され、地域の課題を収集し、みやだいCOC推進室と情報交換を行いながら課題解決を行う。各WGごとに2～3回／年実施。



五ヶ瀬町  
日向市  
西都市  
えびの市  
串間市

# 課題発見科目「地域学入門～地域がキャンパス～ (マイスター必修・2単位・後期)」の開講

地域学入門では、宮崎県内のフィールドワークを通じて、地域の課題を考える手法を学際的に学び、実践する能力を学ぶことができます。講義では、教室にてフィールドワークの技法等を学習し、その後、地域で現地調査を行います。

現地の調査では、所属学部・学科以外の学生とチームを組み、多角的な視点から地域の課題についての考察を深めます。こうした授業を通して、コミュニケーション能力はもちろんのこと、チームワーク力、及びリーダーシップ力など、将来、地域社会で必要とされる能力を身につけます。



「中心市街地の活性化」グループ



「中山間地の活性化」グループ

市役所・役場  
地元企業の方々がそれぞれの地域で10～15名でサポート

(H26実績 40名×4クラス)

受講者数(履修登録者数)

講義名	時間割	受講者数	教育文化学部	農学部	工学部	医学部
地域学入門 I (A)	後期 火 7・8時限	40	28	3	8	1
地域学入門 I (B)	後期 木 1・2時限	40	11	16	13	0
地域学入門 I (C)	後期 火 7・8時限	42	11	20	11	0
地域学入門 I (D)	後期 木 1・2時限	41	2	27	12	0





宮崎ピーマン

# Ⅲ. 地域課題とそれに対応する取り組み

「地域農畜水産物加工・評価システム」や「みやざき地域志向教育研究経費」を利用して、「食と健康」に関する技術開発と実用化を実現する。

地域課題番号	地域課題名	課題地域
1	地域の課題解決や活性化に向けた学生・留学生・教職員を活用 (教員研修・産学連携)	宮崎県
2	大規模乾燥中のGABA生成機構の解明	宮崎県
3	早期水稲栽培への作付可能な新たな飼料作物への取り組み	宮崎県
4	黒毛和種肥育牛の効率的な期間短縮技術の確立	宮崎県
5	野生動物の個体数を制御する技術の開発	宮崎県
6	肉用牛の遺伝性子宮内臓の発生状況 および適切な治療法の検討	宮崎県
7	優秀乳用後継子作出を目的とした親地OPL試験	宮崎県
8	牛血中のβカロテン濃度の簡易評価法	宮崎県
9	宮崎県に農産物加工の振興	宮崎県
10	健康やおいしさに対応する機能性成分に着目した農産物の開発	宮崎県
11	プラズマ殺菌を利用した経度保持技術の開発	宮崎県
12	稀栽培の軽労力化技術の開発	宮崎県
13	中心市街地・商店街の活性化	串間市
14	環境に優しい農場農業の実践	五ヶ瀬町
15	6次産業化(加工品:パプリカ、ピーマン、夏わかび、干シイタケ等)	五ヶ瀬町
16	五ヶ瀬島産への対応(食肉の食肉及びペットフードへの利用)	五ヶ瀬町
17	農業の第三創出	五ヶ瀬町
18	ワカラナスの活用化	五ヶ瀬町
19	ブルーベリー菓子の推進	五ヶ瀬町
20	竹粉を利用した環境型農業の実証(土壌改良剤、堆肥化等)	五ヶ瀬町
21	木質バイオマス(検査)の利活用(開業ポーターへの活用)	五ヶ瀬町
22	しいたけやお茶の機能性成分分析(健康食品への対応)	五ヶ瀬町
23	マンゴーに終熟番熟前	西都市
24	放棄竹林解消に向けた竹資源の活用方法	西都市
25	施設園芸における再生可能エネルギーに関する研究	西都市
26	最先出産システムの家庭実証	西都市
27	農産物の機能性成分分析	西都市
28	竹林を有害鳥獣から守る方法の研究	西都市
29	森林未利用材の木質ペレット化事業の研究	西都市
30	施設園芸用ペレット加工ポスター普及推進事業の研究	西都市
31	農産物産物、6次産業化システム確立のための研究	西都市
32	水蓮水田の環境な環境フィルターの開発	高千穂町
33	木質バイオマス技術の人的育成機関の設置に係る研究	高千穂町
34	農作業軽減に資する技術開発	高千穂町
35	農山村の活性化と地域の「食と農」の連携手法としてのグリーンツーリズム	西米良村
36	中心市街地・商店街の活性化	日南市
37	新たな視点による特産品開発	日之影町
38	超マイクロ水力発電の開発	日之影町
39	緊急時自動運搬設備に付随する1000円現象対策としての商業展開	日向市
40	地産産物を生かした特産品づくり	日向市
41	はまぐりを生かしたまぐりづくりの推進	日向市
42	地産の宝再発見	日向市
43	地域防災力の向上支援	日向市
44	道の駅「こうごう」の再生事業	日向市
45	地産産物4駅連携事業	日向市
46	(市内)道の駅2、道の駅1、まちの駅1の連携による情報発信の強化等)	日向市
47	高速道路の開通を促した観光誘客促進施設強化事業	日向市
48	はまぐりキャンプ場活性化事業(プロ野球キャンプ等誘致事業)	日向市
49	グリーンサードの活用方法	日向市
50	中小企業の経営ノウハウ不足の問題	日向市
51	中小企業の創業支援上の問題	日向市

宮崎県の地域課題(H26)



みやだいフードラボの設置・広報

# みやだい COC フーズサイエンスラボラトリー



# H26年度 みやざき地域志向教育研究経費

平成26年度みやざき地域志向教育研究経費			
研究費タイプ	I. 地域の声対応型	II. 地域課題実践型卒業研究型	III. 自由公募型
対象研究	別紙1及び別紙2に示す地域課題に取り組む研究を対象	別紙1及び別紙2に示す宮崎の地域課題に取り組む研究を対象	別紙1及び別紙2以外の宮崎地域に関する研究を対象
研究従事者	必須:研究代表者(申請者) 任意:研究協力者(申請者以外の教職員、自治体関係者、宮崎地域企業関係者、学生等)	必須:研究代表者(申請者) <b>卒業論文作成学生</b> 任意:研究協力者(申請者以外の教職員、自治体関係者、宮崎地域企業関係者、その他の学生等)	必須:研究代表者(申請者) 任意:研究協力者(申請者以外の教職員、自治体関係者、宮崎地域企業関係者、学生等)
対象領域	教育	研究	社会貢献
支給金額	上限:50万円	上限:10万円	上限:50万円
採択件数(予定)	13	5	7
他補助金との重複	不可	不可	不可
マッチング支援	—	—	支援依頼期限:4/30(水)
申請期限	申請書提出期限:5/16(金)		

公募説明会資料より抜粋





宮崎キンカン

# H26年度 みやざき地域志向教育研究経費

No	事業名	代表者
1	五ヶ瀬町における風土ビジネス振興と地域活性化に関するプロジェクト	根岸 裕孝
2	プラズマ殺菌を利用した鮮度保持技術の開発	迫田 達也
3	生涯学習講座の質の向上と関心の高まりを引き出す取り組み（公民館講座開設事業）	今井 富士夫
4	小規模コミュニティを対象とした水道用水用生物濾過フィルターの開発	友松 重樹
5	みやざき新事業創出人材育成「チャレンジ塾」	明石 良
6	超マイクロ小水力発電の開発	日吉 健二
7	低温保存によるサツマイモ傷害発生メカニズムの解明と食味向上技術の開発	湯淺 高志
8	DHA強化はまぐり作出法に関する研究	田岡 洋介
9	MKR1(Miyazaki Kaki Rootstock No.1)によるカキ低樹高わい化栽培の実用化	鉄村 琢哉
10	有害鳥獣から農地や竹林を守る方法の開発	西脇 亜也
11	牛白血病 清浄の町創造プロジェクト	関口 敏
12	剣道防具の打撃緩和技術と面の耐久性に関する研究	デン ガン
13	西都市西都原地区及び東米良地区におけるグリーンツーリズムの現状と課題	藤掛 一郎
14	高干穂地域の刈干草地におけるネピアグラスの混植適応性および飼料品質	石井 康之
15	えびの市ブランドの統一した特産品等のイメージ戦略および「JAPANsg」(自治体運営型通信販売サービス)を活用した特産品販売	山本 直之
16	新規牧草Teffの栽培特性の解明	井戸田 幸子
17	朝ごはんとながら、保護者協働の生徒指導スキル開発実践研究プロジェクト	立元 真
18	宮崎の農産物の食品加工における減菌、消毒への新たなイノベーション技術の提案	湯地 敏史
19	妊産婦と乳児、家族のための災害支援教育の推進	兵頭 慶子
20	家族の「食と健康」基盤と「絆」構築の食育プログラム開発 ―妊娠期（胎児期）から始める食育―	松岡 あやか
21	健康寿命延長のための食生活支援	奥 祥子
22	在宅で生活する精神障害者の食習慣と口腔衛生の実態調査 ～セルフケア向上への取り組み～	白石 裕子
23	西米良村中山間部における自然エネルギーやゆず残渣の有効利用に関する調査研究	林 則行
24	農畜産物の鮮度、健全性を保持する低コスト、適温輸送コンテナ壁部材の開発	河村 隆介
25	システム論理的アプローチによる重要家畜伝染病対策の意思決定モデルの開発	岡崎 直宣
26	高校生とともに取り組む硝酸性窒素をターゲットとした安全で環境にやさしい水環境浄化技術の構築と食への応用	大塚 薫
27	地域の特色を考慮した高齢者のQOL向上と自立生活を支援するための要素技術開発	THI THI ZIN
28	坂元棚田における最適米作技術の伝承と交流による誇り創出プロジェクト	竹下 伸一
29	ウイルス感染防御効果が期待される食品成分および地域食材の探求	水光 正仁
30	水田フル活用のための水稲裏作ダイズ栽培技術の開発	佐伯 雄一
31	フロイラーに多発する鶏大腸菌症の原因究明とその低減に向けた基盤的調査および研究	井口 純
32	「食と健康」を基軸とした機器分析を通じた地域志向教育研究環境の実現	境 健太郎

○申請件数：4学部 54件  
○採択件数：32件（教育：3件、研究：19件、社会貢献：9件）



小学生向け体験講座(工学部)



# 地域ブランド創出に向けた商品開発



地域と共に、  
ブルーベリー葉生産圃場の設置



日向市と宮崎大学教員・学生で企画・開発・販売している「へべす・ブルーベリーブレンド茶」

発した用土を使った。同回は地域民からくる壇見まちの協議会・松木親則会長、市職員、國武教授や学生など約40人が参加、20坪の畑に約7千本の苗木を植えた。今後、栽培方法の確立に向け環境分析、育成状況の評価も研究を行う。

昨年10月ごろ収穫、将来的には付加価値の高い加工品開発にもつづけた考え。國武教授にまると、ブルーベリー葉自体と協力して本格的に栽培するのは今回が初めてという。成果を地域に還元し、市の新しい産業につながることを期待していた。



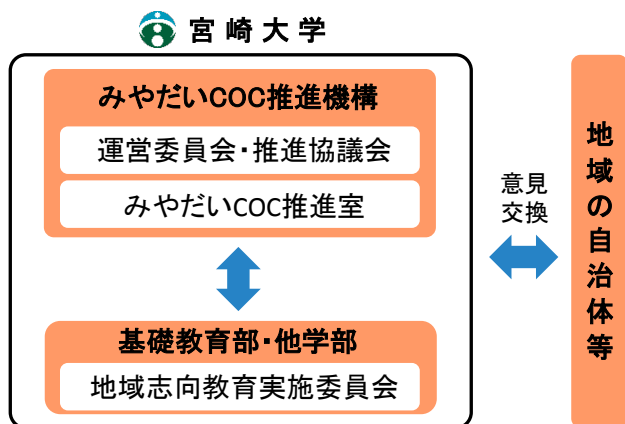
みやだいでユズジュース(左)  
みやだいまそ(右)



## IV. 学内におけるCOC事業の教員の理解浸透のために 全学的に地域を志向した教育への転換

- 教育のスローガン「宮崎に学び、未来をきり拓く人材（グローバルデザイナー）の育成
- 教育組織改革 新生「基礎教育部」の設置（基礎教育と専門教育との連携）
- 能動的学修（アクティブラーニング）への転換
- 地域志向科目群（地域科学群）の設定。  
大学教育入門セミナー他2科目（全学必修）に  
「地域課題等を学ぶ時間」を導入

地域の意見を受け止める体制づくり



### 基礎教育カリキュラムの新たなラインアップ

導入科目	大学教育入門セミナー
	情報数量スキル
	外国語コミュニケーション
	保健体育
	専門基礎
課題発見科目	専門教育入門セミナー
	環境と生命
	現代社会の課題
学士力発展科目	文化・社会系
	科学・技術系
	生命科学系
	学際・生涯学習系
	●地域科学系
	外国語系

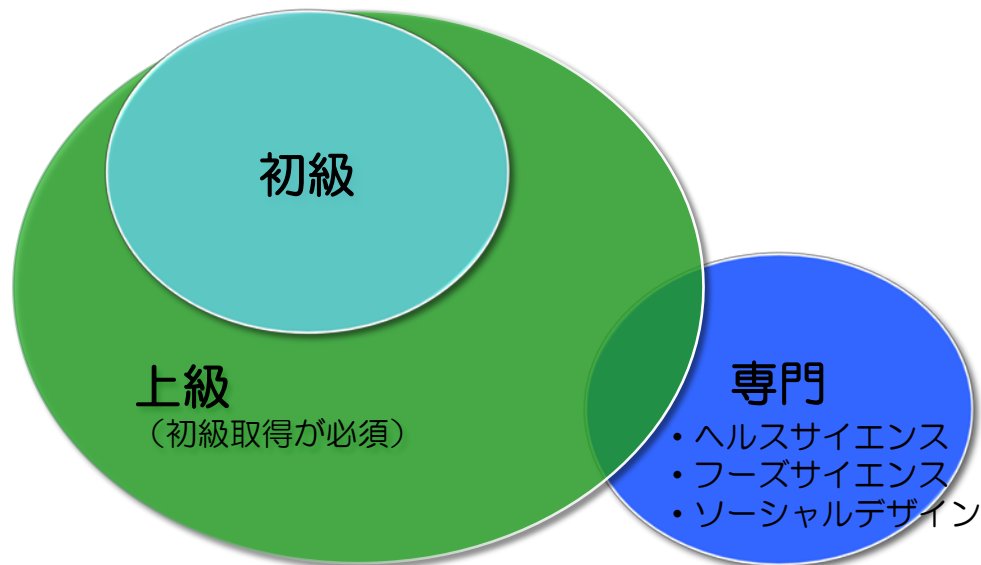
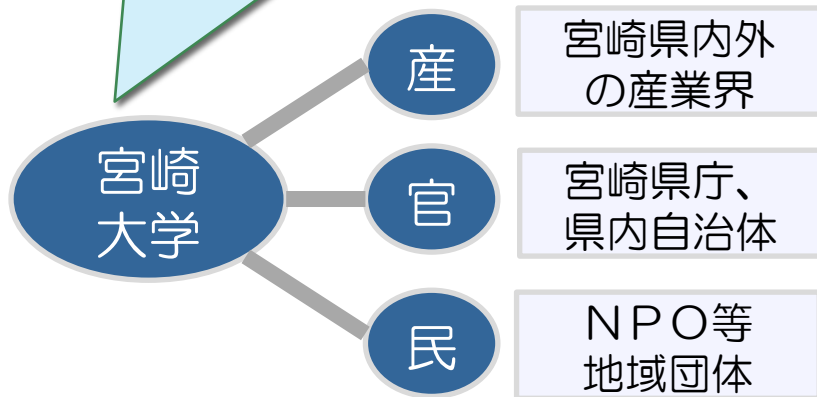
～分かりやすい地域志向型教育プログラムの構築～

# 「地域活性化学生マイスター」制度

～卒業時に、学士号とともに、学長名で授与～

地域志向型・基礎教育の履修生には「地域活性化・学生マイスター初級」、及び宮崎地域志向型一貫教育の履修生には、「地域活性化・学生マイスター上級」認証を行い、地域社会に対して、宮崎地域志向型一貫教育にて育成した学生の資質や能力を公表する。

産官学が協力して、実施する  
「高度な実践力×専門性」  
を備えた教育プログラム



一分かりやすい地域志向型教育プログラムの構築

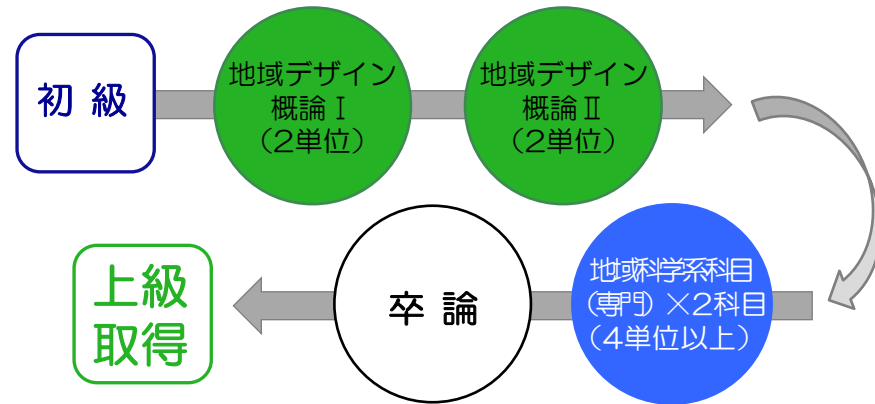
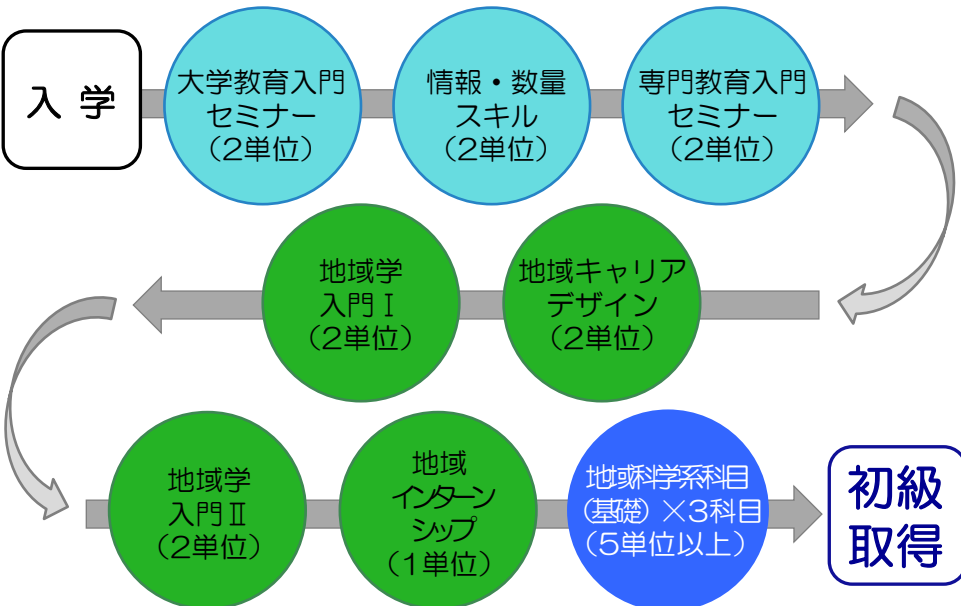
# 「地域活性化・学生マイスター」制度の導入

宮崎地域の課題解決に向けて主体的に行動できる能力を習得

## ■ 地域活性化・学生マイスターのカリキュラム「初級」と「上級」の事例紹介

### マイスター初級のカリキュラム

### マイスター上級のカリキュラム



- 必修科目(全学部生は全員取得)
- マイスター認定の必須科目
- 地域科学系科目(基礎または専門教育課程)
- 卒業論文

学生は、主に基礎教育課程で開講される授業(計18単位以上)を履修すると「初級」を取得でき、さらに専門科目等計8単位分、ならびに卒業論文を履修すれば「上級」が授与されます。

この他にも、医学部や工学部JABEEなど、履修科目が厳密に決まっているコースの学生でもマイスターを修得できるようにするために、「マイスター専門(3種類)」というコースが設定されています。

— 全学教員・地域の意識改革のために —

# 九州・沖縄COCシンポジウムIN宮崎2014

## 「大学COC教育改善宮崎宣言」を採択

### 【大学COC教育改善宮崎宣言】

九州・沖縄地区は豊富な自然、産業、ひとに恵まれています。

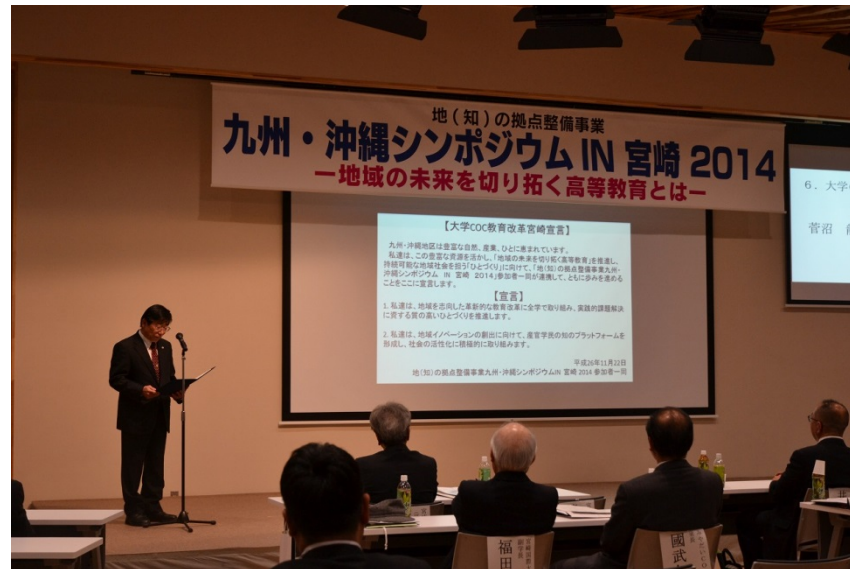
私達は、この豊富な資源を活かし、「地域の未来を切り拓く高等教育」を推進し、持続可能な地域社会を担う「ひとづくり」に向けて、「知(知)の拠点整備事業九州・沖縄シンポジウム IN 宮崎 2014」参加者一同が連携して、ともに歩みを進めることをここに宣言します。

### 【宣言】

1. 私達は、地域を志向した革新的な教育改革に全学で取り組み、実践的課題解決に資する質の高いひとづくりを推進します。
2. 私達は、地域イノベーションの創出に向けて、産官学民の知のプラットフォームを形成し、社会の活性化に積極的に取り組みます。

平成26年11月22日

地(知)の拠点整備事業九州・沖縄シンポジウムIN 宮崎参加者一同



宣言を読みあげる菅沼みやだい推進機構長

## V. 今後の課題

- ① みやだい地域志向カリキュラム受講学生の教育評価  
\* ルーブリック指標の導入
- ② 地域科学系科目への教員の全学出動への理解
- ③ 「食と健康」の地域課題解決に向けた取り組みの成果  
\* 地域ブランドのリリースとベンチャー企業の設立
- ④ 社会貢献意識をもつ学生・教職員の拡大  
\* 全学ボランティアセンターの設置
- ⑤ 学生への地域課題解決ミッションの浸透と地元定着  
\* 高大連携の促進
- ⑥ 九州・沖縄地域での地域人材育成に向けた連携・協働



# そして、COC事業から新学部設置へ

## 宮崎大

# 新学部は「地域資源創成」

## 1学科制、16年4月設置発表 地方創生へ人材育成

宮崎大(菅沼龍夫学長)は14日、2016年4月に文理融合の新学部「地域資源創成学部(仮称)」を設置すると発表した。地域の新たな産業の振興と地域活性化に寄与するため、農業を基盤とした事業創出や、グリーンツーリズムを通して魅力を発信するリーダーなどを育成。少子高齢化や人口減少が進む中、地方創生を実現できる人材を送り出す。

15年9月にも文部科学省に設置許可を申請する予定で、文科省は大学設置・学校法人審議会の意見を参考に、早く地域資源創成学科(同)だけ一産業振興ビジネスリーダーを100人。入学生は100人。経営・経済のほか、農学

### 新学部の概要

地域資源創生学部 地域資源創生学科 [入学定員100名、専任教員25名、学生(地産創生生)]

- 設置の理由**

急激なグローバル化、経済のグローバル化が進行するなか、加速度的な少子高齢化に直面する中山間地域を育める富創成。地域固有の資源(農産品)を生かして、文化・芸術に新たな価値を創出することにより、新たな価値創造の源泉とそれによる地域活性化を図り、経済社会のグローバル化に対応するマネジメント力を発揮できる人材の存在が急務と認識されている。

新学部では、地域資源を活用するためのマーケティングの基礎から実践までのノウハウなど、地域資源を経済活動に活用する仕組みを構築する上で必要な経営・経済学を専門科目として、地域資源の価値を多角的に捉えるための必要な農学・工学系の専門科目を初年度1年次から履修させる。さらに、アクティブラーニング、富創成の専修センターシップ、専任教員による専攻的指導を講ずることにより、社会での実践力を備えた人材を輩出する。
- 育成する能力のキーワード**
  - マーケティング**  
社会全体にとって価値のある価値を創造・流通・促進するためのプロセスを構築し、企業立等である
  - マネジメント&デザイン**  
地域社会を多角的に捉えることができ、課題を解決するための発想を促し、それを実践できる
  - コミュニケーション**  
情報・事業・新技術のノウハウを知り、社会経済活動、観光、文化交流、協働活動に活用できること、ビジネス交流の場での必要な準備力を備えている
- 専門分野・教育の特色**

経営・経営経済学を主体として、  
**地域に関連のある海外科目を学生が自主的に選択できるプログラム**

経営・経済学分野 → 主専攻  
 工学分野 農学分野 社会政策分野 文化・デザイン分野 → 副専攻

地域資源・マネジメントを体現する、**地域と連携した実践教育プログラム**

専修科目による「マーケティング、観光マネジメント、文化・芸術」の3つの専攻領域を設け、専攻領域ごとの専攻領域を履修し、専攻領域ごとの企業・団体での実践力を備える。

**自身の強み (特に富創成に強み)**

- 人口減少、一所得の流出に陥る中山間地域
- 農産品(一次産業)の流通
- 新産業創出/海外進出が不足

求められる人材: 地域創生を担う人物

**【新学部における特定人材像】**  
 次世代の地域社会を担うことができる「グローバルな視点で富創成を実現できる人材」

**産業振興&ビジネスリーダー**

地域の社会経済状況を踏まえ、その強みを生かして、地域資源(農産品・自然・エネルギー等)を活用して、企業・団体から地元企業の新規事業創出、企業再興、富創成までをコーディネートできる人材

地域資源活用企業、フード・ビジネス関連(生産者、食料関連流通企業、農村観光・富創成の生産企業)、金融機関(地産創生支援等)、専攻・専攻特任専攻、企業コンサルタント、農産物、公務員(県庁・市庁職員) 等

**地域交流・マネジメントリーダー**

地域の農産品、文化、自然、観光資源等の価値を認識し、その交流、マーケティング/デジタル/コミュニケーション/企画等を通じて、地域の新しい価値を創出・発信し、そのプロセスをコーディネートできる人材

専攻・専攻特任専攻、観光関連企業(マニエーション/富創成部門)、富創成交流機関(富創成PO、JICA等)、マニエーション、NPO(まちづくりの系)、公務員(県庁・市庁職員) 等

**新事業創成コーディネーター**

中山間地域における過疎化・高齢化による資源の中心市街地との有機的連携・活性化等の新たな課題解決に向けた新機軸を構築し、地域社会に向けた企画・実行ができる人材

NPO(まちづくりの系)、新市街地開発企業、専攻・専攻特任専攻、富創成交流機関、公務員(県庁・市庁職員) 等

平成26年11月15日 宮崎日日新聞



COC

Center Of Community

地域活性化の中核的存在

～宮崎に笑顔と未来を～

"Miyazaki : smiling into our future"

をテーマとし、全学を挙げて本学独自の「地域志向型一貫教育」の構築を行います

～世界を視野に、地域から始めよう～



ご清聴ありがとうございました。